

**令和7年度実績**

# **学校自己評価報告書**

**令和8年5月8日**

**学校法人静岡理工科大学**

**浜松未来総合専門学校**

## 1. 教育理念・教育目標

〈教育理念〉

建学の精神「技術者の育成をもって地域社会に貢献する」

〈教育目標〉

本校は、教育基本法に則り、学校教育法に従い、工業分野における産業の発展に対応する情報処理、商業実務分野における実務教育と専門知識、教育・社会福祉分野における社会性と豊かな人間性、文化・教養分野における芸術性の素養と創造的技術並びに各分野に関連する専門技術についての教育を行い、有能な職業人、社会人の育成を通して、産業の振興と地域社会の発展に寄与することを目的とする。

## 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- ①「選ばれる学校」として評価される教育活動を展開し、学生満足度の向上、競合校への優位性の確保、高校・企業からの信頼を得る。
- ②安定した学校運営基盤を維持し、地域と時代に求められる質の高い教育活動を実現するため、日本人学科 240 名、国際系学科 80 名の入学生を確保する。
- ③地域の産業界・企業・外部諸機関の教育活動への参加、連携、地域貢献活動を通し、地域における本校のプレゼンス向上を図る。
- ④スピード感、教職員の自主性を重んじる学校運営と、グループ内連携の強化推進を図り、教職員エンゲージメント向上と業務効率化の両立を目指す。

## 3. 評価項目の達成及び取組状況

評価方法： 4（適切）→ 3（ほぼ適切）→ 2（やや不適切）→ 1（不適切）

### （1）教育理念・目標

評価欄

1-1	教育理念並びに教育目標が明確に示されているか	4
1-2	学校における職業教育の特色は何か	4
1-3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
1-4	理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
1-5	各学科の教育目標、育成人材像は、業界のニーズに向けて方向づけられているか	4
<b>学校自己評価 平均</b>		<b>4</b>

#### 成果と課題

- ①教育理念並びに教育目標は、学校ホームページや学生便覧に掲載している。
- ②各学科での高い専門知識・技術の習得と、学科横断型プログラムによる社会人として基礎的・汎用的能力（ジェネリックスキル）の育成が本校の特色である。学科横断型プログラムでは、学科を越えたクラスを編成してグループワークを中心とした授業を実施している。
- ③学校の将来構想については、法人内専門学校5校の長期・中期計画に基づき、策定・実行されている。
- ④学校及び学科の育成する人材像を、学校説明会やオープンキャンパス等で説明している。また、学生に対して

<p>は、みらい考房（修学基礎）にて、保護者に対しては後援会総会にて、学科担当が説明している。</p> <p>⑤教育課程編成委員会やシナリオサポート企業と連携して、業界のニーズを把握しカリキュラム改定を実施している。</p>
<p><u>今後の改善方策</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、学校生活や学校の取り組みについては、ホームページ上での情報発信の機会を増やし、学生をはじめ多くの方への周知を図る。また、在校生に対しても重ねて説明をする機会を設ける。</li> <li>・教育課程編成委員およびシナリオサポート企業の段階的な拡充を図り、最新の業界ニーズの把握に努めている。</li> <li>・学校教育法の改正に伴う単位制移行に合わせ、カリキュラム改編を進める。</li> </ul>

## (2) 教育活動

2-1	シラバスが作成され学生に配布されているか	4
2-2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
2-3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
2-4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4
2-5	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
2-6	授業評価の実施・評価体制はあるか	4
2-7	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
2-8	資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
2-9	人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
2-10	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
2-11	関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
2-12	目標に到達しない学生に対し適切なフォローがなされているか	4
<b>学校自己評価 平均</b>		<b>3.9</b>

### 成果と課題

- ①全科目のシラバスは、ホームページ上に公開している。また、各科目における授業開始の際には、授業担当者が学生に対してシラバスに沿って授業計画や到達目標、成績評価基準等を説明している。
- ②教育到達レベルや学習時間は、学生便覧やシラバスに記載して学生に説明している。
- ③産業界・企業と連携して策定した「人材育成目標」に基づいた「人材育成シナリオ」を構築し、複雑化・多様化する分野に合わせ細分化した「小シナリオ」の中に目標達成に必要な科目を配置している。
- ④教育課程編成委員会にて頂いた提言は、速やかに授業へ反映させている。
- ⑤職業実践専門課程のもと、企業連携による実践的な職業教育が体系的に位置づけられている。
- ⑥授業アンケートは毎年3回実施し、集計後学科担当者からフィードバックしている。
  - 1回目 4月～ 7月全授業終了した科目→ 8月集計→9月返却
  - 2回目 8月～11月全授業終了した科目→12月集計→1月返却
  - 3回目12月～ 2月全授業終了した科目→ 3月集計→4月返却

<p>⑦成績評価、単位認定は教務規程に沿ってシラバスに記載、学生へ説明している。</p> <p>⑧資格取得については、各科で重点資格を位置づけ、受験、合格に向けた指導体制のもと授業運営をしている。</p> <p>⑨当該分野での実務経験を積んだ専任教員の採用に努めている。また、現役で実務に関わっている非常勤の講師の確保も継続的に行っている。</p> <p>⑩全学科教員が、技術および指導力の向上を目的とした各種研修に参加し、教育の質向上を図っている。</p> <p>⑪カリキュラム見直しは、職業実践専門課程学科（職業実践専門課程申請予定学科を含む）では、教育課程編成委員会を開催（年2回）し、外部委員の協力のもとカリキュラムの作成・見直しを図っている。</p> <p>⑫目標に到達しない学生に対するフォローは、個別面談や放課後補習等により個々に寄り添った対応をしている。</p>
<p><u>今後の改善方策</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業評価アンケートにおいて、講義の進行スピードやスライドの切り替えが速く、内容の整理や筆記が間に合わないといった意見が散見された。当該教員へのフィードバックを行い、経過を確認している。</li> <li>・専任教員の定着率向上が喫緊の課題となっており、教員組織の充足が遅れている。法人本部と連携し、専任および非常勤講師の計画的な採用を強化する。また、離職防止に向けたオンボーディング(新任教員研修)体制を整備し、早期の適応と定着を支援していく。</li> </ul>

### (3) 教育成果

3-1	就職率の向上が図られているか	3
3-2	資格取得率の向上が図られているか	4
3-3	退学率の低減が図られているか	3
3-4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
<b>学校自己評価 平均</b>		<b>3.5</b>

<p><u>成果と課題</u></p> <p>①就職内定率 97.4%（目標 98%）、専門職内定率 86.0%（目標 85%） 日本人学科は 100%を達成している。国際観光・ビジネス科では、観光業の動向を踏まえ新規企業約 50 社への求人開拓を実施したが、未内定のまま 7 名が卒業を迎えた。この 7 名に対しては卒業後も継続して就職支援を行っている。</p> <p>②資格取得では、年度初めに目標合格率(数)を掲げ対策授業を講じている。情報系の国家試験で対策方法の見直しを行い、合格率を 40%改善し、全国平均を大きく上回る実績を残すことができた。</p> <p>③休退学率は 5.8%(昨年 6.0%) 内訳は精神的 34%(昨年 42%)、進路変更 22%、経済的 17%(昨年 12%)、学業不振 15%、病気 5%、家庭事情 5%、その他 2%。年度当初からの休学と経済的理由の除籍が計 13 名おり、それを除くと 4.5%。昨年同様精神的理由による休退学が多い一方で、経済的理由も増えてきている。</p> <p>④同窓会は継続的に運営されている。卒業生の社会的な活躍については同窓会より情報提供を受けている。在校生の教育成果発表の場として「浜松未来ウィーク」(学習成果発表)を開催した。</p>
<p><u>今後の改善方策</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光分野の求人開拓のための検討チームを作り、求人開拓を行う。</li> <li>・毎年度、重点資格として位置づけられているものについて指標を定め、目標必達として P D C A を回している。</li> <li>・精神的理由による休退学者について、スクールカウンセラーとの連携を強化し、兆候のある学生への早期対応をさらに心がけて学生のケアに努める。</li> </ul>

### (4) 学生支援

4-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
-----	------------------------	---

4-2	学生相談に関する体制は整備されているか	4
4-3	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
4-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
4-5	保護者と適切に連携しているか	3
4-6	卒業生への支援体制はあるか	4
4-7	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4
4-8	新たな求人開拓の努力はしているか	3
4-9	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
4-10	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
<b>学校自己評価 平均</b>		<b>3.7</b>

#### 成果と課題

- ① 学科担当と就職担当が協力のもと、学生の就職相談に常時対応している。また、合同企業ガイダンスで 63 社、校内個別企業説明会では 93 社を招聘し、学生と企業とのマッチングを図った。
- ② 学科担当によるホームルームや個別面談を実施している。スクールカウンセラーによるカウンセリングをプライバシーに配慮して受けられる体制を整えている。オンラインによるカウンセリングも随時可能である。
- ③ 「高等教育の修学支援制度」の認定を受けている。またこれまで通り、学生支援機構の奨学金制度や提携するクレジット会社の教育ローンを低金利で利用できる。
- ④ 年度初めに全学生対象に健康診断を実施している。また、学校医を契約しており、必要に応じて日頃からアドバイスが受けられる体制を整えている。
- ⑤ 保護者から成る後援会が組織されており、学校に事務局を設置している。学生指導として出欠席指導、成績不良者に対する保護者連絡等は常に実施しており、学生の変化を状況に応じて情報を共有する体制をとっている。
- ⑥ 卒業生から成る同窓会が組織されており、学校に事務局を設置している。定期的に役員会・同窓会を開催して卒業生の動向把握に努めている。また、卒業生への再就職支援体制を継続的に運営している。
- ⑦ 高等学校との連携によりガイダンスをはじめ授業も増えてきており、キャリア教育・職業教育を各種職業分野において実施している。
- ⑧ 企業訪問や各種交流会などへの積極的な参加を通じ、新規求人の開拓を行なっている。しかしながら外国人留学生の増加に対してのさらなる求人開拓は継続の課題である。
- ⑨ 課外活動として、学校全体規模でバス遠足や、学科ごとに教育上必要な施設見学や展示会見学等を実施する際は、保護者による学校後援会組織からの支援を受ける体制を整えている。
- ⑩ 本科生における教育環境は計画的に整備している。法人全体においてもリカレント・リスキリングに対する取り組みが静岡駅前キャンパスで始まった。

#### 今後の改善方策

- ・ 就職活動の早期化や多様化する学生への対応を適切に行い、個々に向き合った指導を実践する。
- ・ カウンセリングの利用推進により、心理的側面からもきめ細やかな支援体制を構築する。
- ・ 高等学校の連携校数の更なる充実化と中学校段階からの職業意識形成に向けたアプローチを新たに展開する。
- ・ リカレント、リスキリング教育は、中長期的計画に盛り込まれ検討している。
- ・ 各学校宛求人を専門学校グループ全体で共有することにより、求人の有益化と学生とのマッチング向上を図る。

### (5) 教育環境

5-1	講義室、実習室の管理は適切に行われているか	4
-----	-----------------------	---

5-2	実習室及び講義室は学生の自習室として開放しているか	4
5-3	教育用機器備品は整備されており活用されているか	4
5-4	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されている	4
5-5	防災に対する体制は整備されているか	4
5-6	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
<b>学校自己評価 平均</b>		<b>4</b>

#### 成果と課題

- ①講義室、実習室は管理担当者（教員）を割り当てている。ハードウェア・ソフトウェアについても定期的にバージョンアップを図っている。
- ②実習室及び教室は原則自習室として開放している。図書は、各科で専門書を購入して教室や実習室で自由に閲覧できるよう整備している。
- ③教育用機器備品は授業計画に合わせ、計画的に整備、更新を進めている。令和7年度はWindows実習室のパソコンの更新を行った。
- ④各科目教育に必要な実習室や設備など、学習をするための環境は整っている。
- ⑤防災マニュアルが整備されており、毎年全学生を対象に避難訓練を実施している。
- ⑥学科担当、就職担当、分掌担当の役割分担のもと、効果的な成果があげられるよう実施している。

#### 今後の改善方策

- ・引き続き、学生数や人材育成目標に見合った機材整備は計画的に取り組んでいく。
- ・インターンシップやオープンカンパニーの参加を奨励し、学生が企業と接触する機会を増やす。

## (6) 学生の募集と受け入れ

6-1	入学案内には志願者が必要とする情報が掲載されているか	4
6-2	募集要項の内容は適切か	4
6-3	学生募集活動は、適正に行われているか	3
6-4	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
6-5	学納金は妥当なものとなっているか	4
<b>学校自己評価 平均</b>		<b>3.8</b>

#### 成果と課題

- ①専門用語をできる限り少なくして志願者が分かりやすい一般的な言葉で表現し、虚偽のない正確な情報掲載を常に努めている。
- ②入試方法がWEB出願となり、志願者が混乱しないよう視覚でも理解できるような構成にしている。学費についても卒業までにかかる総額（全経費）を表記し、透明性の高い資料として提供している。
- ③オープンキャンパスの参加は学校選択において大きな要素であり毎月1～2回開催し、運営内容も試行錯誤しながら参加者に寄り添った内容となるよう検討の上実施しているが、入学者数は思うように伸びず定員数が未達となっている学科がある。入学選考は10月以降月1回実施し、3月は志願者ごとに随時実施している。
- ④日々の学習における作品の成果物、取得資格、就職実績などの成果は、ホームページやパンフレットでの発信をはじめ、ガイダンスや高校訪問、オープンキャンパスでは対面にて直接ステークホルダーへ伝えている。
- ⑤学納金については、教育の質の維持・向上、施設設備、消費税率など内外の要因を見極め、内部の効率的な運営に努めながら法人全体で適切に判断している。

#### 今後の改善方策

- ・今後も継続して対象者に分かりやすく情報を整理し伝えるとともに、業界事情や学生支援活動を外部にもっとデジタルツール等でも積極的に発信し続け、紳士的な募集活動と健全な学校運営に努める。

### (7) 教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守

7-1	教職員の能力、業務内容の評価を定期的実施しているか	4
7-2	組織間、各部署間の連携は適切に図られているか	3
7-3	非常時の危機対策管理に対する周知は徹底されているか	4
7-4	消防計画、学校安全計画は適切に整備し、防災訓練等は実施されているか	4
7-5	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
7-6	事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
7-7	運営組織や意志決定機能は、規則等で明確化されているか、有効に機能しているか	4
7-8	人事、給与に関する制度は整備されているか	4
7-9	教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	4
7-10	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
7-11	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3
7-12	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
7-13	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
7-14	財務について会計監査が適正に行われているか	4
7-15	財務情報公開の体制整備はできているか	4
7-16	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
7-17	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
7-18	自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
7-19	自己評価結果を公開しているか	4
7-20	ハラスメントに対する防止対応策が整備されているか	4
<b>学校自己評価 平均</b>		<b>3.9</b>

#### 成果と課題

- ①法人内の人事評価制度に従い3回（目標設定、進捗、成果）に分けて実施している。
- ②教務・総務・広報・就職の各部門が連携し、業務上の様々な問題解決に取り組んでいる。法人内グループ校間の連携も保育分野での合同の近畿大学九州短期大学の巡回対応やゲーム分野の共同の業界講演、法人本部主体での課題解決プロジェクト等、複数の取り組みが企画、運営されている。その一方で、教材の共通化やシラバスの共有といったことはあまりできていない。
- ③④非常時における危機管理対策については、法人全体での対応が周知されており、学校毎の消防等安全に対する対応を継続的に行っている。避難訓練は毎年4月に実施している。
- ⑤⑥⑦学校としての教育目的、事業計画に沿った運営方針は毎年策定され、運営組織の体制も常に見直しを行っている。
- ⑧⑨就業規則を含む諸規程は法人によって整備されている。全ての規程集については電子化されており、教職員が各自のパソコンから自由に閲覧できる環境が整っている。
- ⑩業務を遂行するための各種情報システムは整備されているものの、カレッジによる特徴あるカルチャーは、全校

<p>的な運営体制の統一の壁となっている。ガバナンス統制、効率化の観点から、引き続き更なるDX化の推進が必要である。</p> <p>⑩⑪⑫教育活動に関する情報公開はホームページやパンフレット等を通して最新の情報を提供している。自己評価本評価についても公開している。</p> <p>⑬⑭⑮⑯⑰予算主義を基本とした運営に努めており、財務情報の公開、会計監査など経営上必要となる法令、設置基準に必要な法令は遵守している。</p> <p>⑱個人情報の取り扱いについては教職員への教育・指導を行っており、現時点で問題となる事例は発生していない。</p> <p>⑲ハラスメント防止のための委員会を設けている。また体制や相談窓口も周知している。</p>
<p><u>今後の改善方策</u></p> <p>引き続き、健全で効率的な経営に努める。法令順守を徹底し、全てのステークホルダーからの信頼維持に努める。また、業務の標準化も継続的に取り組んでいく。</p>

## (8) 社会貢献・地域貢献、国際交流

8-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
8-2	留学生の受入れ・派遣等において適切な手続き等がとられているか	4
8-3	留学生の受入れに対して、学内での適切な体制が整備されているか	3
8-4	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3
8-5	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
<b>学校自己評価 平均</b>		<b>3.6</b>
<p><u>成果と課題</u></p> <p>①高等学校対抗のワープロ競技会、中学校/高等学校からの職業体験授業実施、子供向け仕事体験フェアの運営等、各種専門分野においての受け入れ、施設活用を多数行っている。</p> <p>②③留学生に対しての在留更新や生活サポートを行う専任の担当者を配置し、各種法令を遵守した適切な受け入れ体制を整えている。</p> <p>④浜松未来ウィーク（学習成果発表）や保育特別講座など、近隣住民や連携先施設等の方に参加いただく機会を設けている。一方で、行政等からの職業訓練の受託には現時点では至っていない。</p> <p>⑤浜松市役所と連携した小学生向けのUD教育アプリの開発や県警サイバー防犯ボランティアをはじめとする、学内外の社会貢献活動を奨励し、学生の取り組みを支援している。</p>		
<p><u>今後の改善方策</u></p> <p>留学生の受入れ増加に伴い、校内の体制を強化する。</p> <p>地域貢献につながる取り組みをさらに強化し、開かれた学校として施設利用の促進を行っていく。</p>		